Noguchi Summer Medical School に参加して

医学科６年　佐藤　諭

長かった実習が終わり本格的に国試対策を始めた７月に千葉の亀田総合病院で行われたNoguchi Summer Medical School というセミナーに参加してきました。本セミナーでは米国の医学教育で日常的に行われている「患者の訴える症状や身体所見から病態生理を推理し、そのうえで病態を証明するための臨床検査の必然性を説明でき、そのうえで正しい診断・治療に導いていく」というアプローチを実際の臨床例から少人数のグループで学びあうということを中心に行いました。それは私達が３年生でおこなったチュートリアルに近いものです。セミナー参加者は北は北海道大学、南は熊本大学と多くの大学から総勢３４人の学生と実際の医療現場で働いている１５人の医療従事者が参加していました。「将来は海外に留学して移植を学びたい」、「日本だけでなく国際的な活動がしたい」といった世界へ羽ばたきたいという人や「今の日本の医学教育をもっとよくするために自分もなにか力になりたい」といった教育に関心のある人など様々な夢をもった人達が参加しており、お世辞にも交通の便がよいとはいえない千葉の房総半島に全国各地から多くの人が集まったということからもそのモチベーションの高さが伺えました。セッションは全部で６回あり、各セッションは１人の講師に学生６人、オブザーバーの先生数人が１グループになり講師が架空の患者の説明をしながら他の参加者がディスカッションしていくというものでした。面白かったのは６回のセッションでもどれも一工夫されていて、講師が米国人で全て英語でおこなわれたものや小児科のセッションでは人形を用いて救命の実技も交えるなど何度やっても飽きることがなく、しかもどの参加者も非常に積極的に参加しておりお互いに刺激し合いながら学べました。このような学習法は特別な能力も装置も必要とせず正直やろうと思えばいつでもどこでもでき、実際米国の多くの医学生は日常的に行っていることです。そしてこの学習法を成功させる唯一のポイントは【ディスカッションに積極的に参加する】という高い学習意欲だと思います。日本の多くの大学医学部ではこのような学習法を積極的に取り入れていますがどの大学の学生も今回のセミナーと比べ積極的なディスカッションがチューター、学生ともほとんど行われていない状況ということでした。かといって日本の学生は知識や技術は決して悪いわけではなく講義主体の学習や知識偏重の医師国家試験、そして教育者が十分に評価されないシステムなど様々な要因が考えられます。そして今の医学教育をより実りのあるものにしていくために私達医学生がもっと問題意識を持ち積極的に医学教育に関わっていくことが大切だと思います。

東医体など部活以外で他大学の学生と交流する機会がほとんどなかった私にとって全国様々な大学生と交流できたこと自体が大きな財産になりましたし今回のセミナーの存在を教えていただいたばかりではなく強力にサポートしてくれた袴田先生には大変感謝しています。

最後に本セミナー開催してくれた野口医学研究所理事長である町淳二先生が私達に送ってくれた言葉を記したいと思います。

Enjoy learning, Enjoy teaching, and Enjoy caring your patients！！！

第1回 夏期臨床医学教育セミナー

“Noguchi Summer Medical School”

主催：野口アラムナイ　　後援：米国財団法人野口医学研究所／亀田総合病院

≪テーマ≫

“Understanding of Common Symptoms and Diseases”

日時　平成21年7月10日（金）、11日（土）、12日（日）
10日（金）：12：00 開始　12日（日）：12：00 終了

場所　亀田総合病院 Kタワー13階 ホライズンホール
〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

対象　医学生（5年生・6年生）、医学教育従事者

特徴

講師は日米の医学教育を経験している各科米国専門認定医で、米国の大学病院・教育病院において日常行われているディスカッションによる教育を実践します（一部英語）。Common Diseasesの臨床や病態生理の理解から問題解決に導くアプローチを学びたい学生そしてこのような教育方法を学びたい医学教育従事者の参加を期待します。また、朝から晩まで講師と非公式にそして直接話す・議論するチャンスです。参加者と講師が共に学び合い盛り上げ、楽しく且つ有意義に過ごすセミナーです。

- 合宿形式（2泊3日）による小グループ症例検討（1セッション90分。参加者は合計6セッション参加）
- 米国式の“Problem-oriented solving”による問題解決へのアプローチ
- 病歴・身体所見（History & Physical）からの病態生理の理解
- 講師（Faculty）、学生を交えた活発なディスカッション（Active learning）
- Role modelとしての臨床指導教官の役割の実践
- 非公式な講師・学生間の交流を奨励（Happy hours！）
- 将来優れた臨床指導医・医学教育者を目指す学生や米国臨床留学を目指す学生に最適

対象

医学生（5年、6年生）：48名（8名 x 6グループ）
医学教育担当教官・指導医（見学）：12名

費用

学生　：55，000円（宿泊費、全食事、テキスト代含む）
指導医：30，000円（昼食、テキスト代のみ）

Faculty

Program Director　津田 武

Co-Program Director　岸本 暢將

＜内科＞
- 岸本 暢將*　亀田総合病院リウマチ膠原病内科
- 西野 洋　亀田総合病院総合卒後研修センター長
- 八重樫 牧人　亀田総合病院呼吸器内科医長
- 香坂 俊　慶応義塾大学医学部循環器内科特別研究助教
- 藤谷 茂樹　聖マリアンナ医科大学救急医学講師
- Gerald H Stein　フロリダ大学医学部内科臨床助教授

＜小児科＞
- 植田 育也　静岡県立こども病院集中治療科部長
- 津田 武*　A. I. duPont小児病院循環器科 トーマス・ジェファーソン大学小児科准教授

＜外科＞
- 高部 和明　バージニア州立大学医学部外科助教授 生化学・分子生物学助教授
- Alan Lefor　自治医科大学卒後臨床研修センター教授
- 町 淳二*　ハワイ大学医学部外科教授

＜家庭医診療科＞
- 岡田 唯男　亀田ファミリークリニック院長

* セクション・リーダー

申込方法

募集開始：平成21年5月上旬より　＊申込順になります。

- 野口医学研究所のHPよりダウンロードした申込用紙
- 作文「私の目指す医師像」 A4 サイズ800字程度

※作文は任意になりますが、出来るだけ提出をおすすめします。

※プログラムや応募方法に関する詳細は、後日野口医学研究所HP（http://www.noguchi-net.com）に掲載予定

【問い合わせ】
米国財団法人野口医学研究所　日本事務局
Tel：03-3501-0130　E-mail：ryugaku@noguchi-net.com
Fax：03-3580-2490　URL：http://www.noguchi-net.com